

マスメディア各社宛て声明

国際婦人年連絡 世話人 實生 律子
紙谷 雅子
大倉多美子

核兵器禁止条約の採択を心から歓迎し、 日本政府がすみやかに支持し、参加することを求めます

全国組織の女性団体（現在 34 団体）が加盟し、ジェンダー平等の推進とともに核兵器廃絶を訴えつづけてきた国際婦人年連絡会は、広島・長崎の原爆投下から 72 年、人類の英知を結集し、核兵器禁止条約が実現したことを心から喜び、歓迎します。

7 月 7 日、国連の交渉会議で、核兵器を初めて法的に禁止する核兵器禁止条約が、122 カ国の賛成（反対 1 棄権 1）という圧倒的多数で採択されました。

条約は核兵器の使用がもたらす破局的な人道上の帰結を懸念し、使用はもちろん、開発・実験・生産・製造・保有・移転・配備、さらに使用の威嚇も含め、核兵器を全面的に禁止する画期的なものです。

また、ヒバクシャや核実験被害者の「受け入れがたい苦難と危害」に言及し、ヒバクシャをはじめとする市民社会の良心や NGO、女性の役割を強調したことは注目すべきです。

交渉会議には、国連加盟国（193 カ国）の 7 割を超える 130 カ国以上が参加しました。日本政府が会議に参加しなかったばかりか、核兵器禁止条約成立後に「署名しない」と正式に表明したことに、国内外から失望と強い批判の声があがっています。

条約は 9 月 20 日に各国の署名が始まり、50 カ国の批准を得て、90 日後に発効します。

日本政府は、核兵器禁止条約を支持し、すみやかに参加すること。そしてヒバクシャの声を世界に届け、「核保有国」を含むすべての国がこの条約に加わることをよびかけるなど、唯一の戦争被爆国政府として、「核兵器のない世界」の実現へ向けて、リーダーシップを果たすことを要望します。